

No.129  
2000.  
3.31

# 岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名  
(岐阜県百年公園内)

岐阜県博物館内

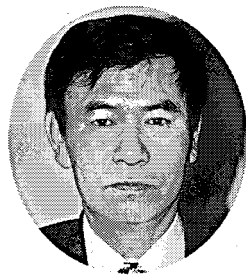
岐阜県博物館協会

TEL 0575-28-3111

振替名古屋637909

## 新たな時代に向かって

岐阜県美術館館長 平光明彦



いつのことかと思っ  
ていた今世紀最後の年、  
2000年を迎え、慌ただ  
しく2ヶ月が過ぎ去っ  
た。経済界は依然とし  
て不況感が漂い、博物  
館界を取り巻く状況も  
まだまだ厳しい。そん

なことを嘆いても埒が明かないが、現実を見  
つめ、逆境こそ絶好の機会と前向きに捉えな  
がら今の博物館界の立場を考えてみたい。

ところで、ここ数年、心ない事件があい  
継いで起こり、日本はどうなってしまったのか  
と不安を感じずにはおれない。地下鉄サリン  
事件、和歌山カレー毒物事件、神戸の児童殺  
人事件、新潟の九年間に及ぶ少女監禁事件、  
そして京都の小学生殺人事件、そういえば商  
工ローンの取り立ての録音テープも聞くに耐  
えないものである。どれも被害に遭われた方  
にとっては何のことか訳も分からないまま死  
に追いやられ、あるいは苦痛を強いられた事  
件だけに加害者には同情の余地はないが、加  
害者こそ現代社会の歪みが生み出した時代の  
犠牲者であり、今こそ社会の仕組みの欠陥を  
しっかりと見つめ直さなければ事の解決には  
結びつかないのではなからうか。一方、次元  
は異なるが、バブル景気に浮かれた無責任な  
経営による金融機関の破綻、東海村の放射能  
漏れ事故なども、組織の弱さ、盲点を露呈し  
た現代病の一つであろう。

かつて「日本人は勤勉で実直であり、教育  
レベルも高く、かつ器用だから世界的にも優  
秀な民族である。」と聞かされていたが、今

はそんな面影は感じ難い。ここ三十数年間の  
急激な経済成長とともに日本人の特性を見失  
ってしまったのであろうか。今どき「名もな  
く食しく美しく」などと言うと笑われそうで  
あるが、「富と名誉のためになら何でもする」  
今日の風潮を裁ち切り、真に心の通う社会を  
再構築することを迫られているのは確かなよ  
うである。

嘗々と築いてきた人類の歴史や遺産、かけ  
がえのない自然界の成り立ちなどを体系的に  
見つめ、考える場である博物館が今の社会で  
果たす役割は計り知れないものがある。ただ  
今までの既成の概念や常識が見直されている  
時期だけに博物館の活動も根底から見直し、  
展示方法や教育普及活動の改革を大胆に試行し、  
新たな方向性を見出していかなければならな  
いことは言うまでもない。全国各地で地域の  
活性化とか町おこしの名目でいろいろな施設  
が造られ、催事が行われている。しかし、そ  
れは経済的な効果が最優先されているだけに、  
多くは大衆の興味に重きを置いたものであ  
ったり、どこかの二番煎じであったりする。そ  
のために地域の必然性に乏しく内容的に軟弱  
なものとなり、一過性のものとなっている場  
合が多いのではなからうか。こんな時こそ地  
域に密着した、しかも真理をついた普遍性の  
あるものが求められていると思う。ややもす  
ると本物を見失いがちであるだけに、少なく  
とも博物館界だけは時の流行りや浮ついたも  
のに惑わされることなく、本道を見極めなが  
ら地域の人々と一体となって、豊かな社会を  
築く一翼を担っていかねばと心したいもので  
ある。

## 第47回全国博物館大会報告

# ～多様な要請に応えうる魅力ある展示づくりを求めて～

日時：平成11年11月15日(月)～16日(火)

会場：福岡市 アクロス福岡

本年度の全国博物館大会が11月15日から2日間、福岡市で開催された。



開会式には全国博物館協会長佐野文一郎氏、文部大臣中曽根弘文氏、福岡県知事麻生渡氏、福岡市長山崎広太郎氏らの挨拶・祝辞があった。話のポイントは、

- ・博物館法の改正・運営の弾力化
- ・学校週5日制をふまえた地域の子供達を育てる「全国子供プラン」緊急3ヶ年計画
- ・ハンズオン…体験…五感に訴える活動を
- ・文化・生涯学習の拠点

などであった。

続いて表彰式があり、本県の松本五三氏を含む永年勤続賞30名、棚橋賞2名、また東海支部が支部表彰を受けた。

全体会議に移り、文部省生涯学習局社会教育課長太田和良幸氏より行政報告があった。

- ①博物館の現状について
- ②博物館法の改正により、設置の際の国への報告義務廃止や学芸員定数17から、規模活動に応じての配置などについて
- ③「親しむ博物館づくり事業～見て触れておもしろ体験博物館～」を今年は31館で実施したこと
- ④科学系博物館活用ネットワーク推進事業
- ⑤子ども科学・ものづくり教室の全国展開
- ⑥エル・ネット（教育情報衛星通信ネットワーク）について

続いて文化庁文化部地域文化振興課長甲野正道氏より行政報告があった。

- ①地域こども文化プラン
- ②美術体験事業

### ③我が国の文化財保護施策の概要

### ④登録美術品制度について

次に西南学院大学教授の高倉洋彰氏により「九州国立博物館について」の講演があった。太宰府市に建設予定で、展示構想としては、日本文化の形成をアジア史的観点から捉えることとし、6つの発達段階別展示を予定している。

シンポジウムでは大会テーマに沿った5館の実践発表があった。概略を以下に列挙する。

- ・横浜市歴史博物館の博物館と野外施設を活用した小中学生や高齢者の利用増加努力
- ・神奈川県立生命の星科学館では多様な要請に応えうる魅力ある展示づくりを求め、ミュージアムリレーを行い各地の博物館を巡る企画を実施しており、その催しに不登校生などが参加している様子
- ・碌山美術館の中小博物館の広域連携と魅力ある展示づくりとしてのバスツアー博物館巡りや行政との連携についての方法
- ・広島市こども文化科学館での子供のための博物館展示、「子供が興味を持つ催しは大人も興味を持つ」という考えの実践
- ・海の中道海洋生態科学館からは「魅力ある展示づくりには、自然環境、建物、学芸員も展示に含まれるという捉え方が必要」などの話があり、会場から「体験学習も展示に入る」との意見も出た。

2日目には2つの分科会が開かれ、人文系分科会ではむき出し展示への努力、火打ち石体験、ボランティアとの協力、地域の支えの意識、再来客の郷愁感を考慮してあえて展示替えしないなどの話が出た。一方、自然系分科会では集客、学校との連携、五感を使った展示、障害者への配慮の話があり、作業部屋を展示として見せたり、何度も来館できる継続的展示などの意見が出た。

最後の全体会議では大会決議文を採択し、来年度開催の宮城県を代表し、岡田東北歴史博物館長の挨拶があり閉会した。

(岐阜県博物館 古川和明)

### 第45回岐阜県博物館協会会員研修会報告

演題：「刀剣の見方、管理・保存について」

刀剣研磨士 伊佐地 亨氏

「文化財の保存と環境について」

岐阜県博物館学芸員 岩佐伸一氏

日時：平成11年11月17日(水)13:30~16:10

会場：岐阜県博物館

参加：22名



伊佐地 亨氏



岩佐 伸一氏

まず、伊佐地氏から、実際に刀を提示しながら刃文の種類や帽子の刃文や造込みなどをどのように見ていけばよいのか、OHPの図を使って具体的に説明されました。刀の見るポイントをつかめばその刀の制作者やその時代がわかるということでしたが、やはり刀剣を見る目を養う相当の修行が必要だと感じました。質問の時間では「現代において刀を研ぐ目的は?」とか「刀を研ぐ時期を知る目安は?」「自分の現在行っている刀剣の管理・保存はこれでよいか?」といった日頃の刀剣に関わる疑問等が多く出てきて、伊佐地氏がテンポよく明快に答えてみえる姿が印象的でした。

次の岩佐氏からは「博物館とその収蔵資料の保存に関する知識」という20問のクイズを出され、その項目にしたがって丁寧に説明されました。文化財保護法のことや照度、温度、湿気、紫外線、防虫、薫蒸のことなど文化財の保存と環境に関わるあらゆる要素がそのクイズ中に折り込まれていました。したがってクイズを解きながら一つ一つの意味が分かっていく楽しさもあり、あっという間にお話が終わったような気がしました。さらに、今話題の体験重視のハンズ・オンについてもスライドを使った説明がありました。

講演後は岐阜県博物館の坂口浩之学芸員から開催中の特別展「水とまつり」の解説をお聞きし、散会しました。

(機関紙委員 岐阜県博物館 井上好章)

### 第83回岐阜県博物館協会公開講座報告

演題：「飛騨万華鏡」

日時：平成12年2月27日(日)14:00~15:30

会場：岐阜県美術館ハイビジョンホール

講師：岐阜県美術館学芸員 廣江泰孝氏

参加：90名



廣江 泰孝氏

当会第83回公開講座は岐阜県美術館美術講座と兼ねて行われ、折から開催中の特別展「飛騨の今昔—明治以降の新展開—」にかかわるお話がありました。

講師の廣江氏は、岐阜県美術館の学芸員として洋画に関する調査研究活動を積極的に進められてきました。今回の展覧会開催に当たってもたびたび飛騨各地を訪れ、飛騨びととのふれあいの中から、埋もれていた作品や作家の発掘に努められたとのことでした。

飛騨というと周囲を険しい山に囲まれ、他地域との交流が少ないために独自の文化を育ててきたように思われがらですが、今回のお話をうかがってはそのような考え方は改めなければならないようです。たとえば飛騨の絵画といえば江戸時代からの伝統を受け継いだ日本画か「飛騨版画」のどちらかという認識が一般的ですが、実は明治時代の早い頃から洋画の制作がなされていたことなど、飛騨びとの先進的な文化受容の一面を知ることができました。

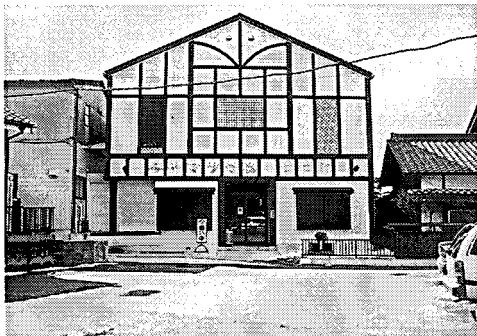
(岐阜県博物館 岩佐伸一)



特別展「水とまつり」解説風景

## 前田館

〒508-0004 中津川市花戸町4-7  
TEL 0573-65-2070



前田館全景

近代日本画壇の重鎮、前田<sup>せいへい</sup>青邨。中津川市出身の彼が、92才で亡くなるまでに数多くの優れた作品を残し、また文化勲章受章、法隆寺金堂壁画を再現したことなど、彼の偉大な業績をご存じの方は多いと思います。しかし、彼はキノコが好物であったことを知っている方は少ないでしょう。そんな、前田青邨の人となりに触れることができる場所、それが「前田館」です。

中津川駅前賑やかな商店街を、一步、西に入ったところに「前田館」があります。建物には「前田館」と並んで「ヤマツ食品」の文字もあります。オーナーである前田青甫氏の本職は食品会社の代表取締役なのです。この食品会社は、慶応2年に前田青邨の父、常吉が創業し、現在まで四代続く老舗です。店舗を増設する際、「倉庫にするのはもったいない。これを機会に我が家に伝わる青邨画伯ゆかりの品々を多くの人にみていただければ…」との思いから、平成10年11月17日、前田館はオープンしました。

前田御夫妻の案内で展示室に入ると、御主人は前田青邨関係の書籍が並ぶ書棚から一冊の古いアルバムを取り出されました。そして一枚の武者絵、「金子家忠」の写真を示されたのです。この武者絵は、明治35年、青邨が本格的に日本画を勉強し始めて一年あまりの17才の時、第十二回日本絵画協会・第七回日本美術院連合絵画共進会に出品されたもので、

三等褒賞を受けた作品です。この写真に写っている「金子家忠」こそ、今までどのような絵なのか誰もわからない幻の作品だったのです。

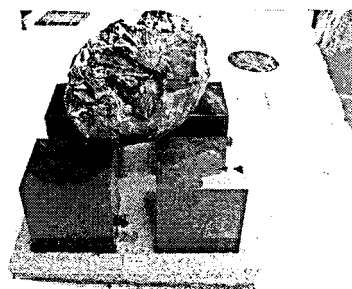
「今まで気づかなかったのが不思議なくらい」とおっしゃっていましたが、御主人が前田館を開館するにあたり資料を調べられると、そのアルバムの中に幻の「金子家忠」を写した小さな写真を見つけられたそうです。この写真は大きく引き伸ばして展示してありますので、青邨ファンの方は是非御覧ください。



展示室風景

また展示室には、前田青邨の作品はもちろんのこと、青邨が実家に宛てた、「キノコ送れ」の葉書や、親交のあった横山大観、安田靉彦、小林古径らが前田氏宅を訪れた際の礼状も展示してあります。これらの手紙には近代日本画壇の重鎮たちが、中津川で何を楽しみ、何をおいしく食べたのか、そんなことが書かれており、大変興味深いものです。

前田館の玄関前には、八木麟太郎の彫刻、「時間と空間を越えて」が私たちを出迎えてくれます。時間と空間を越えて前田青邨に逢うことができる、前田館はそんなところです。



八木麟太郎「時間と空間を越えて」

【交通】JR中津川駅から徒歩7分

【開館時間】9:00～17:00

【休館】日曜日・祝祭日

【入館料】無料

(機関紙委員 土岐市美濃陶磁歴史館 加藤真司)